

富士市の財布の中身は…?



平成7年度 財政事情 の公表

今回は、平成7年度の当初予算をお知らせします。
市の予算には、一般会計と特別会計、企業会計があり、一般会計の歳入の59・4%を市税が占めています。皆さんが納めた税金は、一体どのように使われているのでしょうか。富士市の財布の中身は、どうなっているのでしょうか。
あなた自身の目で確かめてみてください。

一般会計は3・1%アップ

今年度の一般会計は六百九十四億五千万円。前年度と比較して3・1%の増加となっています。

一般会計の歳入で一番多いのは、皆さんから納めていただく市民税や固定資産税などの市税です。全体の59・4%を占めています。前年度より2・7%の減少を見込んでいます。

ことしも昨年に引き続き、法人市民税の大幅な落ち込みが予想されているため、財政調整基金の取り崩しや市債の活用などで、財源確保に努めました。富士市では、税金などの自主財源は73・2%。国の補助金や借入金などの依存財源は26・8%となっています。

平成7年度 一般会計

歳入

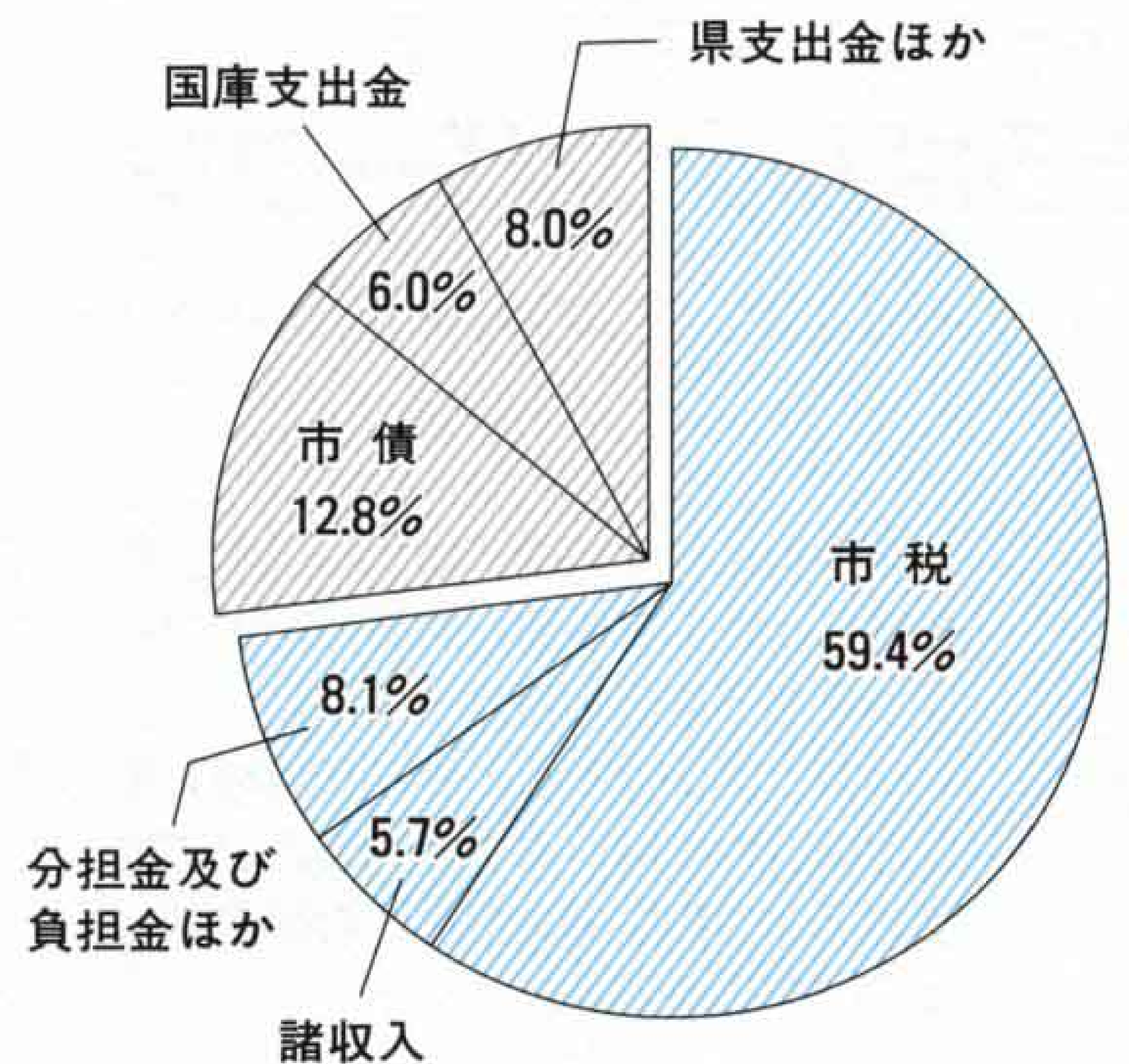
会計年度内に入ってくるお金

科目別	収入金額
総額	694億5,000万円
市税 (市民税・固定資産税など)	412億4,130万円
市債 (市の借入金)	88億5,560万円
国庫支出金 (国からの補助金など)	41億8,983万円
諸収入 (貸付金元利収入など)	39億2,045万円
県支出金 (県からの補助金など)	19億3,858万円
地方譲与税 (国から地方に譲与されるお金)	18億3,000万円
分担金及び負担金 (施設入所者の負担金など)	17億2,449万円
使用料及び手数料 (市営住宅使用料など)	16億 590万円
繰越金 (前年度からの繰越金)	11億5,400万円
繰入金 (基金からの繰入金)	10億 289万円
その他	19億8,696万円

財源別歳入

自主財源
依存財源

694億5,000万円



歳出

会計年度内に使うお金 ※会計年度（4月1日～翌年3月31日）

科目別	支出金額
総額	694億5,000万円
土木費 (道路や公園などの整備に)	143億9,652万円
教育費 (学校整備や社会教育に)	124億2,152万円
衛生費 (ごみ処理や病気の予防に)	109億2,742万円
民生費 (社会福祉などに)	93億 273万円
公債費 (借りたお金を返すために)	68億8,616万円
総務費 (庁舎管理や人件費などに)	66億9,486万円
消防費 (消防・水防・防災のために)	24億4,313万円
労働費 (働く人のために)	22億3,183万円
農林水産業費 (農林業や水産業のために)	18億4,965万円
商工費 (商業や工業の発展のために)	16億3,840万円
議会費 (議会の運営のために)	5億5,076万円
その他	1億 702万円

一般会計

一般会計とは、市税収入を主な財源として、道路、教育、福祉などに使う会計です。

歳入の約6割は市税

412億4,130万円

歳出のトップは土木費

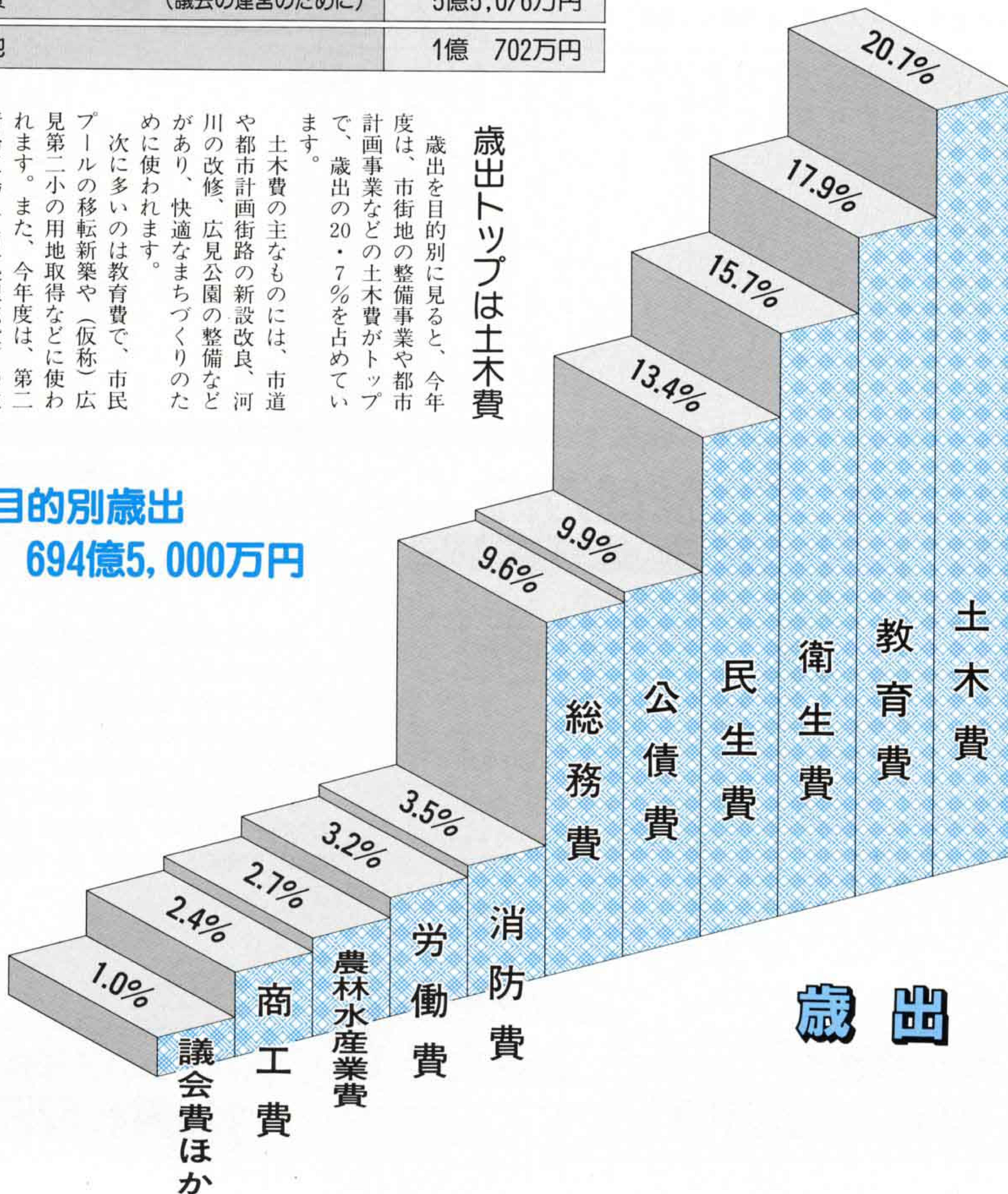
143億9,652万円

歳出を目的別に見ると、今年度は、市街地の整備事業や都市計画事業などの土木費がトップで、歳出の20・7%を占めています。

土木費の主なものには、市道や都市計画街路の新設改良、河川の改修、広見公園の整備などがあり、快適なまちづくりのために使われます。

次に多いのは教育費で、市民プールの移転新築や（仮称）広見第二小の用地取得などに使われます。また、今年度は、第二清掃工場（し尿処理施設）の建設のため、衛生費が第三位となっています。

歳出トップは土木費



目的別歳出
694億5,000万円

歳出

道路や
公園などの整備に 6万1,885円



内訳の主なものを見ると…

教育に 5万3,396円



市民1人 あたりに 使うお金 29万8,540円

ごみ処理や
病気の予防に 4万6,973円



社会福祉などに 3万9,989円



※平成7年4月1日の人口23万2,632人で算出

市民1人当たりの 市税負担額 17万7,281円

財政事情三辞典

自主財源

市がみずからの手で、収納したり徴収できる財源のことです。例えば市民税、諸収入、使用料や手数料、繰入金、繰越金などです。富士市の歳入総額に占める自主財源比率は、73・2%です。ちなみに県下の市町村平均は約64%となっています。

依存財源

自主財源に対して、国や県からの収入をいいます。国庫支出金、県支出金、地方譲与税がこれに当たります。

財政調整基金

家庭の貯金と同じような性質を持っています。経済事情の変動などに対応するために積み立てられたお金で、財源が不足する場合に不足額を補うために使います。

市債

市が建設事業などを行うため、国や銀行から長期にお金を借りることです。

特別会計の予算額 325億269万円

前年度から6.5%の伸び

特別会計

会計区分	予算額
老人保健医療事業	105億1,800万円
国民健康保険事業	102億 100万円
下水道事業	94億4,700万円
富士中部土地区画整理事業	11億3,300万円
公共用地先行取得事業	5億3,739万円
地方卸売市場事業	2億3,800万円
駐車場事業	6,750万円

行政の基本的な経費を一般会計といい、特定の事業ごとに分けて、別個に会計を設置している経費を特別会計といいます。

富士市には、16の特別会計と2つの企業会計があります。左の表では、財産管理特別会計（内山、旧吉原、旧島田、旧今泉、旧今泉・一色・神戸・今宮、旧元吉原、旧須津、旧吉永、旧原田）を省略しています。

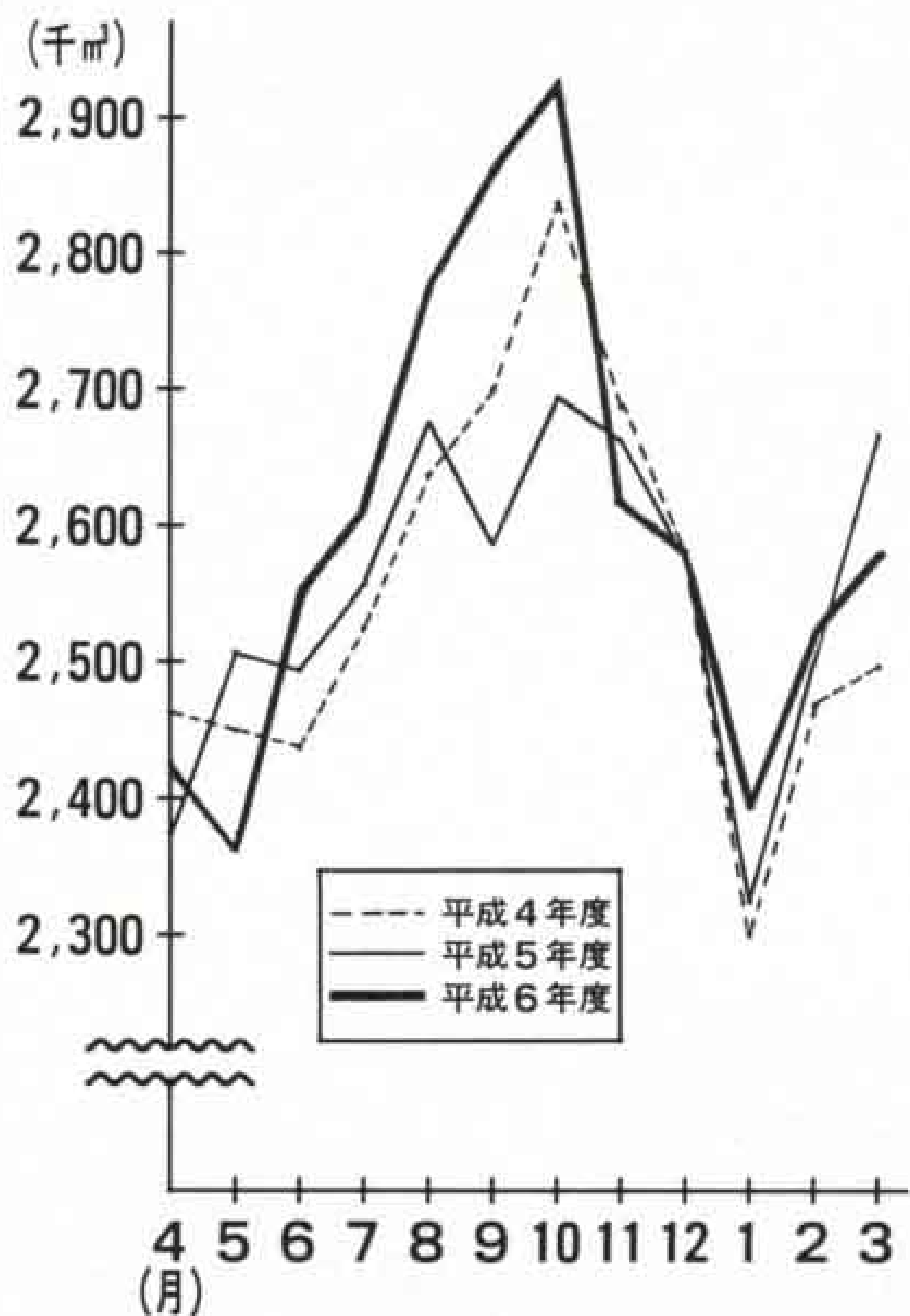
水道事業の予算額 48億4,432万円

企業会計

病院事業の予算額 118億4,525万円

水道

水道使用量の状況



実際に水道を使用した月の使用量は、2ヶ月後のデータにあらわれます。
(例・10月のデータは、8月中の使用量)

昨年の夏は、猛暑に加えて空梅雨だったこともあり、全国的に水不足となりました。ところが富士市は、富士山の恩恵を受けて水資源が豊富なため、水不足の心配はありませんでした。また、水道料金も安く、県内の二十市の中で二番目に安い料金となっています。水道事業の経営には、多額な資金が必要です。いつでも必要なときに、必要なだけの水が使えるよう、水道施設の整備と維持管理を行わなければなりません。

このために必要な、水道施設の建設資金のほとんどは、企業債（借入金）で賄われており、元金に利息をつけて返済しています。各家庭へ十分に水を提供するために必要となる、これらの費用は、皆さんからの水道料金が充てられています。

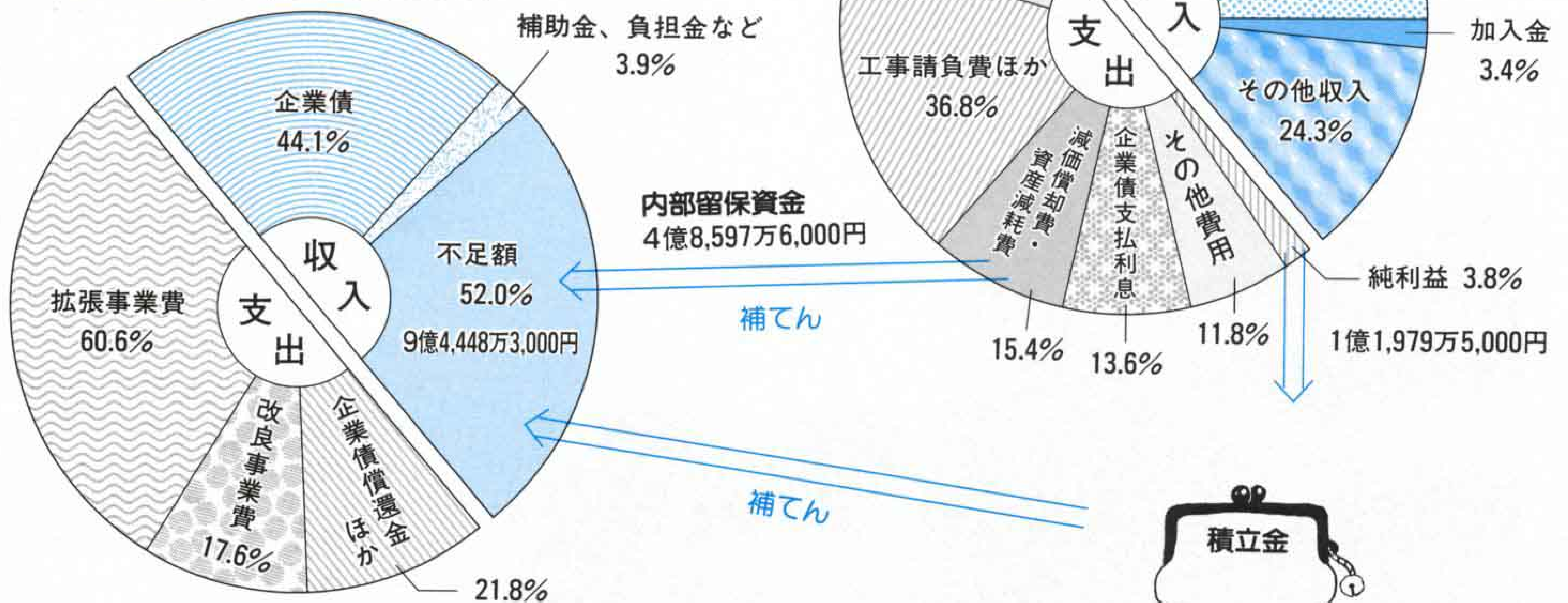
平成7年度 収益的収入・支出予算

この予算は、年度内における水道事業の経営に関するすべての収益と費用を計上してあります。

平成7年度の予算において1億1,979万5,000円の利益が見込まれますが、この利益は、施設と水道管網の整備、改良を実施するための資本的収支予算の不足分に補てんするため、どうしても必要なものとなります。

収入	31億4,887万6,000円
支出	30億2,908万1,000円
利益	1億1,979万5,000円

平成7年度 資本的収入・支出予算



この予算は、事業計画などをもとに、老朽管などの管網整備と配水設備などの改良事業を実施するための事業費ほかを計上してあります。

収支における不足分は、内部留保資金（減価償却費など）と積立金などで補てんされます。

収入	8億7,075万4,000円
支出	18億1,523万7,000円
不足額	9億4,448万3,000円



富士市の良質で豊富な飲料水は、上水道と簡易水道によって提供されています。



平成六年度末における富士市の上水道普及率は88・4%、簡易水道普及率は10・7%となっています。現在の上下水道の形態は、昭和四十一年の二市一町合併後、水道施設と水源の確保を進めてきたことにより、完成したと言えます。

昨年の水不足や、ことしの阪神・淡路大震災におけるライフラインへの打撃など、最近、水の大切さを痛感させられた出来事が重なっています。それらの状況を踏まえ、富士市の水道事業は、これからも市民生活の維持発展のため、不安のない「豊かで清浄な水道づくり」を目指し、地方公営企業として、市民サービスに努めていきます。

六月一日から七日までは、水道週間です。この機会に改めて水道のこゝろを見つめ直してみませんか。

水道に関する問い合わせ

水道部庶務課 内線二五三〇